

# 専門工事業団体と初の合同見学会 現場で「体感」と「体験」 高校生70人が関心深める

札幌建設協

一般社団法人札幌建設業協会(岩田圭剛会長)と専門工事業四団体は九日、札幌市手稲区で高校生を対象

とした初の合同現場見学会を開催した。若年者の入職促進に向けた元下一体の取組の一環で、札幌工業高校建築科の二年生七十人余りが参加。生の現場を体感するとともに、自らも作業を体験し、大いに理解と関心を深めていた。

人材確保・育成が業界全体の大きな課題となっている中、札幌協と道建設作工技建協組、道鉄筋業協組、道左官業組合連合会、道建設駆体工事業協組の専門工事業四団体は、昨年度から合同での取組を開始。見学会もその一環で、従来は札幌協が単独で開催していたものを、五団体共同で実施



女性の若手技能者が左官の作業を演習し、高校生も体験



実際の工事に携わる形で、スラブ結束作業を行った

する形とした。内容も、工事全体の概要を紹介するとともに、専門工事業ごとに技能者による実演も交えて、建築工事における位置付けや仕事の内容を説明。高校生自らも作業を行うなど工夫を凝らし、まさに現場を舞台にした体験型イベントとなった。現場は、岩田地崎建設株式会社が担当している手稲駅前再開発事業による分譲マンションで、引率の教諭を含めて八十人が参加。各団体の担当者が同行した。札幌協の村井悟専務理事、岩田地崎建設建築部の敦賀時代次長があいさつに立ち、見学会を通じて建設業への興味・関心をもってもらえるよう期待。同校の卒業生で、ことし岩田地崎建設に入社した村岡諒祐さんは、現場での苦労ややりがいの後輩に伝えた。

引き続き、現場代理人の老田一史氏が工事概要などを説明。そのあと、生徒が四班に分かれて、とび、型枠、左官、鉄筋それぞれの仕事についてビデオの視聴も交えて説明を受けた。

女性を含む若手技能者による型枠の組み立てや左官のデモンストレーションが行われたほか、高校生も左官やエア釘打機の作業を体験。実際に作業が行われている八階の現場では、全生徒が鉄筋のスラブ結束作業を行った。

ある生徒は、担当者から「今後も左官が体験できる機会があります」との説明を受け、「いつですか」と興味津々。女子生徒の一人は、「同じ女性が活躍している姿に、刺激を受けた」とし、今後の進路を見据えていた。

# 4職種の魅力紹介

札幌工高生招き現場見学会  
札幌建協

札幌建設業協会(岩田 圭剛会長)は9日、手稲区内で岩田地崎建設(本社・中央区)が工事を進めている再開発現場に札幌工高生を招き、見学会を開いた。若年者の入職が減少する中、専門工事業者がそれぞれ担当する工事内容を説明し、現場で働く面白さを伝えた。

迫力ある建築現場を体験することで、生徒に建設業への関心を持ってもらう恒例の取り組み。今回は建築科2年生の73人が参加し、札幌建協からは村井 悟専務理事らが同行した。JR手稲駅前で施工中の手稲本町1-3地区第1種市街地再開発は、2013年9月から分譲マンションと店舗、医療施設の複合施設新築が進められている。規模はR/C造、地下1地上14階塔屋1階、延べ8764平方メートル。完成は15年3月を予定する。現場では同高卒業生で

た。

北海道鉄筋業協同組合はハッカーを使い鉄筋を結束する体験をさせた。北海道左官業組合連合会は1400年以上の歴史ある職種の深みを強調し、左官工が施工を裏演じた。

生徒の外崎礼子さんは「知り合いの施工管理技士から現場の面白さを聞き、格好いい仕事だと憧れている」と目を輝かせた。引率した池原智宏建築科長は「トイレや更衣室

など女性に配慮する環境整備を進めてほしい」と話していた。



指導を受けながら鉄筋作業も体験した